

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	佐賀女子短期大学
設置者名	学校法人 旭学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・ 通信制の 場合	実務経験のある 教員等による 授業科目の単位数				省令 で定め る基準 単位数	配 置 困 難
			全学 共通科 目	学部等 共通科 目	専門 科目	合計		
地域みらい学科	福祉とソーシャルケアコース	夜・通信	4	4	69	77	7	
	韓国語文化コース	夜・通信			9	17	7	
	グローバル共生ITコース	夜・通信			21	29	7	
	司書アーカイブズコース	夜・通信			21	29	7	
こども未来学科	こども教育コース	夜・通信	28.5		35	67.5	7	
	こども保育コース	夜・通信			4	36.5	7	
	こども養護コース	夜・通信			30	62.5	7	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

ホームページ「情報の公開」→「修学上の情報等」
 4. 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業計画（シラバス又は年間授業計画の概要）
 ・実務経験のある教員等による授業
https://sajotan.asahigakuen.ac.jp/app/wp-content/uploads/2023/04/R4-2-jitumu_keiken_kyoin_jyugyo.pdf

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名	該当なし
(困難である理由)	
該当なし	

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	佐賀女子短期大学
設置者名	学校法人 旭学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページ「情報の公開」→「財務情報」 3. 寄附行為、役員報酬規程、令和4年度役員名簿、ガバナンス・コード https://sajotan.asahigakuen.ac.jp/app/wp-content/uploads/2023/04/3-3-R4_kifukoi_yakuinhosyukitei_yakuin-meibo_governance__2.pdf
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	(現職) 弁護士	4年 (2020.4.1～ 2024.3.31)	労務、法務
非常勤	(現職) 佐賀みずものがたり館 館長	4年 (2022.4.1～ 2026.3.31)	教学・研究分野に 関するチェック
非常勤	(現職) ミズホールディングス 代表取締役会長	4年 (2020.6.1～ 2024.5.31)	経営強化に関する 企画運営
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	佐賀女子短期大学
設置者名	学校法人 旭学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 授業計画(シラバス)の作成・公表に関しては、ポータルサイトの登録・閲覧システムを利用しており、各授業について以下の内容について記載している。 授業の概要、授業の到達目標、該当ディプロマ・ポリシー項目番号、授業形態、授業計画(事前事後学習含む) アクティブ・ラーニングを促す手法(主要なもの)、 評価方法(基準)、課題等のフィードバック、教科書・参考書、 科目に関する実務経験を活かした教育内容、オフィスアワー 作成にあたっては、次年度のカリキュラム及び授業担当者決定後、12月初旬ごろにシラバス作成の依頼をし、2月中旬に提出となる。その後、教務委員会を中心に内容等のチェックが行われ、それを経て年度初日に公開となる。また、ポータルサイトへの公開と同時に、Webサイトのトップページ下部に「Web シラバス」としてリンクを置き、広く外部にも公表を行っている。 上記取組については、地域みらい及びこども未来の両学科について、同様の取扱いをしている。	
授業計画書の公表方法	学内では、ポータルサイトにて授業計画を公開している。 また、ホームページ「情報の公開」にて広く学外に公表している。 ホームページ「情報の公開」→「修学上の情報等」 4. 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業計画(シラバス又は年間授業計画の概要) ・Webシラバス https://a3web.ap-cloud.com/web_asahigakuen/syllabus/se0010.aspx?me=EJ&opi=mt0010
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

単位の付与、及び履修の認定に関しては本学では基本的に授業科目担当者の責任において行われている。それぞれの授業科目ではシラバス（授業計画）の到達目標と該当ディプロマ・ポリシーの項目を通じて、履修者に求められる学修成果とコースのディプロマ・ポリシーを明示している。また、シラバスには評価の方法、基準も記載しており、担当教員はそこに示した方法と基準に従って受講者の学修成果を評価し、履修を認定し単位を付与している。シラバスに示された方法の妥当性に関しては、コース内の複数の教員が、事前にチェックするシステムをとっている。また、学年の終わりには授業科目の成績分布傾向を公表しており、同じく公開される各授業への学生アンケートの自由記述項目等をもとに、各教員にそれらに基づいた自己評価と成績平準化の取り組みを義務づけている。このような取り組みから、本学では適正で厳格な履修認定と単位付与を行っているものと認識している。

授業への出席状況は、ポータルサイトにて教員と学生個人との間で共有しており、同時に職員の協力も得て学生からの欠席連絡を受付、コース内で共有する体制を整備することで、単位取得条件のひとつである授業への出席状況については公明、厳正に認定をしている。忌引きや感染症等への対応に基づく欠席に関しては、根拠となる資料を添えて届けを提出し、認定されると公認の欠席として配慮がなされる制度を整えている。また、学期の中間点に、開講科目全てにおいて欠席調査を実施し、欠席の続いた学生には、指導教員から欠席超過にならないような指導を行っている。

加えて、学修意欲の把握に関しては、本学ではシラバスに示されているように全ての授業でアクティブ・ラーニングの手法を取り入れており、その際の受講者との対話を通して把握に務めている。また、IR 室によって学年末に行われる学習時間等の調査のデータも、学修意欲の把握の一助としている。

3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)
成績評価において、本学はG P A制度を下記のとおり導入・運用している。

GPA (グレード・ポイント・アベレージ) 制度に基づく成績評価の判定基準は次の通りとする。

①	判定	評価	評点	G P	内容
	合格	秀 (S)	100～90	4	特に優秀な成績
		優 (A)	89～80	3	優れた成績
		良 (B)	79～70	2	良好な成績
		可 (C)	69～60	1	合格と認められる成績
	不合格	不可 (D)	59 点以下	0	※1
	認定	認定 (N)	—	—	※2
	合格	合格 (P)	—	—	※3

※1 全授業数の 3 分の 1 を超える欠席の場合、試験を放棄した場合を含む。

※2 他大学等 (留学を含む) で修得した科目を本学の単位として認定したことを表す (検定試験等に合格し、本学の単位として認定した場合を含む)。

※3 他大学等 (留学を含む) で合格の認定を受けた単位を本学の単位として認定したことを表す。

- ② GPA (GP の平均値：1 単位あたりの GP) の算出方法は次の通りとする。
履修登録した科目毎に、GP と単位数を乗じ、その合計数を履修登録科目の総単位数で除して算出する。

$$\text{GPA} = \frac{(\text{GP} \times \text{単位数}) \text{ の合計}}{\text{履修登録科目の総単位数}}$$

上記の方法により算出しており、学生及び教職員は「ポータルサイト」にて、常に状況を確認することができる。

上記取組みについては、地域みらい及びこども未来の両学科について、同様の取扱いをしている。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

学内については、入学当初全学生及び教職員に配布される学生便覧「Campus Life」(冊子)に掲載すると共に、4月のオリエンテーションにて説明を行っている。また、ホームページ「情報の公開」にて広く学外に公表している。
ホームページ「情報の公開」→「修学上の情報等」

4. 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業計画 (シラバス又は年間授業計画の概要)
・『2023 Campus Life』(電子ブック)
https://www.digib.net/2023/S/2_22468_TS/

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

	(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 卒業認定に関しては、機関、学科、コースのレベルでその方針（ディプロマ・ポリシー）が予め定められおり、学生に入学時に配付される「学生便覧 Campus Life」やホームページにおいて学生やその他の関係者に対して内容を公表している。同時に、各コースの卒業要件も同様の方法にて公表している。また、この方針は入学後のオリエンテーション等で学生にも周知を図っている。そして、この方針は年度末に開催される教育カンファレンスにおいて、その年度の教育活動を総括したデータを基に、毎年内容の検討がなされている。 これらのディプロマ・ポリシーの内容が卒業時に満足できているかについては、各学期終了後、学修成果の評価項目に対して個別の学生ごとに達成度のチェックを実施しており、評価項目の達成度をもとにポリシーに到達できているのかの評価を行っている。 卒業の判定に関しては、通常の教授会とは別に例年2月に卒業判定教授会を開催し、全てのコースの卒業予定者を対象に卒業要件をもとに判定をおこなっている。本学では卒業認定の方針（ディプロマポリシー）をもとに学修成果とその評価項目が作られており、学修成果の評価に関しては、学期ごとに評価項目をもとに学生の自己評価と指導教員との面談評価の結果を用いて実施している。 また卒業時には、卒業認定の基礎となる取得単位及び成績に加え、学修成果の獲得状況、正課及び正課外での活動等について記した、ディプロマサプリメントを各学生に配布し、周知を行っている。 これらのことから、本学では卒業認定に関する方針を定め、広報するとともに適切に認定しているものと認識している。
卒業の認定に関する 方針の公表方法	卒業の認定方針（ディプロマ・ポリシー）と卒業要件に関しては、「学生便覧 Campus Life」（冊子）に掲載し、入学時に各学生に配布している。また、ホームページ「情報の公開」にて広く学外に公表している。 ホームページ「情報の公開」→「修学上の情報等」 5. 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準（必修・選択・自由科目別の必要単位修得数及び取得可能学位）、学修時間の推移 https://sajotan.asahigakuen.ac.jp/app/wp-content/uploads/2023/04/R4_2_5_gakusyu_seika%E3%83%BB%E3%83%BB%E3%83%BB.pdf 10. 各学科・コースの教育目標、学習成果と3つのポリシー https://sajotan.asahigakuen.ac.jp/app/wp-content/uploads/2023/04/R4_2_10_campus-life-2022%E3%80%90policy%E3%80%91.pdf

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	佐賀女子短期大学
設置者名	学校法人 旭学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	ホームページ「情報の公開」→「財務情報」 1. 財産目録、貸借対照表、収支計算書 https://sajotan.asahigakuen.ac.jp/app/wp-content/uploads/2023/04/3-1-R4_zaisanmokuroku_taisyaku_syusikeisansyo.pdf
収支計算書又は損益計算書	ホームページ「情報の公開」→「財務情報」 1. 財産目録、貸借対照表、収支計算書 https://sajotan.asahigakuen.ac.jp/app/wp-content/uploads/2023/04/3-1-R4_zaisanmokuroku_taisyaku_syusikeisansyo.pdf
財産目録	ホームページ「情報の公開」→「財務情報」 1. 財産目録、貸借対照表、収支計算書 https://sajotan.asahigakuen.ac.jp/app/wp-content/uploads/2023/04/3-1-R4_zaisanmokuroku_taisyaku_syusikeisansyo.pdf
事業報告書	ホームページ「情報の公開」→「財務情報」 2. 令和3年度事業報告書、監事の監査報告書、その他の財務情報 https://sajotan.asahigakuen.ac.jp/app/wp-content/uploads/2023/04/3-2-R4_jigyohoukoku_kansahoukoku_sonota-zaimujoho.pdf
監事による監査報告(書)	ホームページ「情報の公開」→「財務情報」 2. 令和3年度事業報告書、監事の監査報告書、その他の財務情報 https://sajotan.asahigakuen.ac.jp/app/wp-content/uploads/2023/04/3-2-R4_jigyohoukoku_kansahoukoku_sonota-zaimujoho.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:	対象年度:	)
中長期計画(名称:	対象年度:	)
公表方法:		

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

ホームページ「情報の公開」→「上記以外の情報」
・令和2年度佐賀女子短期大学自己点検・評価報告書
https://sajotan.asahigakuen.ac.jp/app/wp-content/uploads/2023/04/evaluation_report.pdf

(2) 認証評価の結果（任意記載事項）

公表方法：
ホームページ「バナー」
「一般財団法人大学・短期大学基準協会による令和2年度短期大学認証評価の結果、
適格と認定されました。」
→ 学校法人旭学園 佐賀女子短期大学 機関別評価結果
<https://sajotan.asahigakuen.ac.jp/app/wp-content/themes/sagajoshi/assets/img/pdf/acceredited.pdf>
<http://www.asahigakuen.ac.jp/sajotan/>

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 地域みらい学科
教育研究上の目的 (公表方法： ホームページ「情報の公開」→「教育研究上の基礎的な情報」 1. 学部、学科、課程、研究科、専攻ごとの名称及び教育研究上の目的 https://sajotan.asahigakuen.ac.jp/app/wp-content/uploads/2023/04/1-1-R4-gakka-meisyo_kyoiku-mokuteki.pdf
(概要) 建学の精神に基づき、地域総合学科としてのコース固有の教育課程、およびコース横断的な教育課程のもと、専門性をベースとした「女性の社会突破力」「子どもの未来想像力」「地域で育む実践力」「多文化共生力」の4つの総合力を涵養することにより、豊かな人間性と教養をそなえ、広い視野と確かな職業観を持ち、女性の可能性を広げ、主体的に地域の未来創造に貢献していく人材を育成する。
卒業の認定に関する方針 (公表方法： ホームページ「情報の公開」→「修学上の情報等」 10. 各学科・コースの教育目標、学習成果と3つのポリシー https://sajotan.asahigakuen.ac.jp/app/wp-content/uploads/2023/04/R4_2_10_campus-life-2022%E3%80%90policy%E3%80%91.pdf
(概要) 本学科は、本学科の学習成果に基づき、以下の能力を備え、本学所定の在籍期間と単位取得等の卒業要件を満たした人に対して短期大学士の学位を授ける。 1. 「順和、礼譲、敬愛、奉仕」の学園訓を身に付け、女性の可能性を広げ、国際・地域社会の発展に貢献できる人 2. 本学で修得した教養と専門的知識・技能を、国際・地域社会で主体的に活用できる人 3. 他の意見を聴く姿勢を持ち、自ら考えて判断し、それをわかりやすく伝えることができる人 4. さまざまな人とコミュニケーションをとり、積極的に協働できる人 5. コースが求める専門性の基盤を構築できる人
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： ホームページ「情報の公開」→「修学上の情報等」 10. 各学科・コースの教育目標、学習成果と3つのポリシー https://sajotan.asahigakuen.ac.jp/app/wp-content/uploads/2023/04/R4_2_10_campus-life-2022%E3%80%90policy%E3%80%91.pdf

(概要) 本学科は、本学科のディプロマ・ポリシーに則り、以下の内容を重視した教育を行う。 1. 「順和、礼譲、敬愛、奉仕」の学園訓の涵養と女性の可能性を広げることとを目的とした全学共通のキャリア教育、および学科共通のキャリア教育 2. 思考力、コミュニケーション能力、実践力、および協働力の育成を目的としたインターンシップ、アクティブ・ラーニング、地域連携型授業、およびグローバル教育等 3. コースが定める専門性の基盤獲得を目指した教育課程の編成 (学科共通のキャリア教育) ○学科共通科目「地域みらい学」の展開 ・地域の抱える課題の発見とその解決方法、および多職種協働のあり方を実践的に学ぶ。 ○今日的課題の理解に対応したカリキュラムの展開 ・国内外のインターンシップや海外研修を通し、地域や職業ごとの課題を意識した職業観を身に付ける。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法： ホームページ「情報の公開」→「修学上の情報等」 10. 各学科・コースの教育目標、学習成果と3つのポリシー https://sajotan.asahigakuen.ac.jp/app/wp-content/uploads/2023/04/R4_2_10_campus-life-2022%E3%80%90policy%E3%80%91.pdf
(概要) 本学科は、本学科のカリキュラム・ポリシーに基づいた教育を展開し、本学科の学習成果を獲得していくために、以下のような人材を国内外から広く受け入れる。 1. 「順和、礼譲、敬愛、奉仕」の学園訓に共感し、女性の可能性を広げ、地域社会の発展に貢献しようとする人 2. 本学の学びに必要な教養と基礎的知識・技能を備え、主体的に学ぼうとする人 3. 他の意見を聴く姿勢を持ち、自ら考えて判断し、それをわかりやすく伝えようとする人 4. さまざまな人とコミュニケーションをとり、積極的に協働しようとする人 5. 志望するコースが求める専門性の基盤を身に付けようとする人

学部等名 こども未来学科
教育研究上の目的 （公表方法： ホームページ「情報の公開」→「教育研究上の基礎的な情報」 1. 学部、学科、課程、研究科、専攻ごとの名称及び教育研究上の目的 https://sajotan.asahigakuen.ac.jp/app/wp-content/uploads/2023/04/1-1-R4-gakka-meisyo_kyoiku-mokuteki.pdf
（概要） 建学の精神に基づき、幅広い教養と専門的知識・技能を教授するとともに、専門性をベースとした「女性の社会突破力」「子どもの未来想像力」「地域で育む実践力」「多文化共生力」の4つの総合力を涵養することにより、豊かな人間性と教養をそなえ、広い視野と確かな子ども観を持ち、新しい時代の要請に応じて教育・保育・福祉の世界で活躍し、「子どもの未来」の幸せに貢献できる人材を育成する。
卒業の認定に関する方針 （公表方法： ホームページ「情報の公開」→「修学上の情報等」 10. 各学科・コースの教育目標、学習成果と3つのポリシー https://sajotan.asahigakuen.ac.jp/app/wp-content/uploads/2023/04/R4_2_10_campus-life-2022%E3%80%90policy%E3%80%91.pdf
（概要） 本学科は、本学科の学習成果に基づき、以下の能力を備え、本学所定の在籍期間と単位取得等の卒業要件を満たした人に対して短期大学士の学位を授ける。 1. 「順和、礼譲、敬愛、奉仕」の学園訓を身に付け、女性の可能性を広げ、国際・地域社会の発展に貢献できる人 2. 本学で修得した教養と専門的知識・技能を、国際・地域社会で主体的に活用できる人 3. 他の意見を聴く姿勢を持ち、自ら考えて判断し、それをわかりやすく伝えることができる人 4. さまざまな人とコミュニケーションをとり、積極的に協働できる人 5. コースが求める専門性の基盤を構築できる人
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法： ホームページ「情報の公開」→「修学上の情報等」 10. 各学科・コースの教育目標、学習成果と3つのポリシー https://sajotan.asahigakuen.ac.jp/app/wp-content/uploads/2023/04/R4_2_10_campus-life-2022%E3%80%90policy%E3%80%91.pdf

(概要) 本学科は、本学科のディプロマ・ポリシーに則り、以下の内容を重視した教育を行う。 1. 「順和、礼譲、敬愛、奉仕」の学園訓の涵養と女性の可能性を広げることを目的とした全学共通のキャリア教育、および学科共通のキャリア教育 2. 思考力、コミュニケーション能力、実践力、および協働力の育成を目的としたインターンシップ、アクティブ・ラーニング、地域連携型授業、およびグローバル教育等 3. それぞれのコースが定める専門性の基盤獲得を目指した教育課程の編成(学科共通のキャリア教育) ○学科共通科目「こども未来学」の展開 ・地域の抱える課題の発見とその解決方法、および多職種協働のあり方を実践的に学ぶ。 ○今日的課題に対応したカリキュラムの展開 ・「発達支援」や「接続期への対応」など就職後を意識したスキルを身に付ける。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法： ホームページ「情報の公開」→「修学上の情報等」 10. 各学科・コースの教育目標、学習成果と3つのポリシー https://sajotan.asahigakuen.ac.jp/app/wp-content/uploads/2023/04/R4_2_10_campus-life-2022%E3%80%90policy%E3%80%91.pdf
(概要) 本学科は、本学科のカリキュラム・ポリシーに基づいた教育を展開し、本学科の学習成果を獲得していくために、以下のような人材を国内外から広く受け入れる。 1. 「順和、礼譲、敬愛、奉仕」の学園訓に共感し、女性の可能性を広げ、地域社会の発展に貢献しようとする人 2. 本学の学びに必要な教養と基礎的知識・技能を備え、主体的に学ぼうとする人 3. 他の意見を聴く姿勢を持ち、自ら考えて判断し、それをわかりやすく伝えようとする人 4. さまざまな人とコミュニケーションをとり、積極的に協働しようとする人 5. 志望するコースが求める専門性の基盤を身に付けようとする人

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法： ホームページ「情報の公開」→「修学上の情報等」 2. ティーチングポートフォリオ https://sajotan.asahigakuen.ac.jp/about/teacher/
--

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織 の名称	学長・ 副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	4 人	－					4 人
こども未来	－	5 人	8 人	1 人	0 人	1 人	15 人
地域みらい	－	2 人	6 人	4 人	1 人	0 人	13 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0 人		68 人					68 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： ホームページ「情報の公開」→「修学上の情報等」 1. 教員組織、各教員が有する学位及び業績 https://sajotan.asahigakuen.ac.jp/about/teacher/					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
本学では、各学科から 2 名と事務部門から 2 名で FD 委員会を組織し、その部署が中心となって FD 活動を展開している。本学では FD 活動を、授業を中心とした教育活動全般にわたる改善の取り組みと定義し、FD 研修会の開催、授業相互見学、優秀授業の選定と表彰を通して啓発活動等を行っている。 活動の中心となる研修会は、例年全学規模で 7 回程度を実施している。教員を対象とした、授業改善に直接資する内容の FD 研修会は、授業方法に関する内容や、ICT の活用方法などを実施してきた。また、その内容を教育活動全般に広げた FD・SD 研修会では、留学生への防災教育、ハラスメント、合理的配慮等に関する内容を実施してきた。職員向けの SD 研修会では、これまで財務や働き方改革等の内容に関する研修会を実施している。この他、必要に応じて学科・単位での FD 研修も実施されている。 昨年度からは、リモート形式で他大学との共同研修会を実施しており、他大学の取り組みや実情を知る機会となっている。また、本学では研修会への参加率の目標を 80%以上と設定しており、この目標値については、概ね達成されている。 研修会以外の活動として、例年、学生の授業アンケートの結果をもとにして、優秀授業表彰活動を行っている。教授会にて表彰が行われ、その際に受賞者から授業の方法や工夫に関して簡単な説明をしてもらい、その内容を共有することで授業の内容や方法の向上と同時に、教員の授業改善への動機づけを図っている。 FD 活動の一貫として、組織的な授業相互参観の取り組みも実施してきた。専任教員同士で 3 人程度のグループを作り、授業を相互に参観し、ピアレビューを行う授業相互参観制度も導入しており、毎年報告書を作成している。昨年度からは、この報告書に代わり、各教員にティーチングポートフォリオの作成を求め、こうした一連の流れで、授業改善に取り組んでもらう試みも行っている。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
地域みらい	110 人	72 人	65.5%	220 人	151 人	68.6%	人	人
こども未来	80 人	84 人	105.0%	160 人	164 人	102.5%	人	人
合計	190 人	156 人	82.1%	380 人	315 人	82.9%	人	人
(備考)								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
地域みらい学科	98 人 (100%)	8 人 (8.2%)	76 人 (77.6%)	14 人 (14.3%)
こども未来学科	52 人 (100%)	0 人 (0.0%)	50 人 (96.2%)	2 人 (0.0%)
合計	150 人 (100%)	8 人 (5.3%)	126 人 (84.0%)	16 人 (10.7%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 日清医療食品株式会社、社会福祉法人同朋神埼双葉園、国際医療福祉大学高邦会グループ高木病院、医療法人森山胃腸科グループホームふろふき、社会福祉法人春陽会特別養護老人ホーム春庵、社会福祉法人長興会長光園障害者支援センター、山代ガス株式会社、西鉄エアーサービス株式会社、TBC グループ株式会社、宇佐市役所(司書)、株式会社村岡屋、税理法人横尾会計事務所、鹿児島市立浜小学校、佐世保市立楠栖小学校、大牟田市立天領小学校、佐賀女子短期大学付属ふたばこども園、学校法人鳥栖学園布津原幼稚園、学校法人慈光学園認定こども園くぼた、社会福祉法人諸富福祉会あかつき保育園、社会福祉法人蓮華会桜が丘学園、学校法人清風学園認定こども園牛津こどもの森				
(備考) なし				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
地域みらい	116 人 (100%)	91 人 (78.4%)	3 人 (2.6%)	11 人 (9.5%)	11 人 (9.5%)
こども未来	57 人 (100%)	52 人 (91.2%)	0 人 (0%)	5 人 (8.8%)	0 人 (0%)
合計	173 人 (100%)	143 人 (82.7%)	3 人 (1.7%)	16 人 (9.2%)	11 人 (6.4%)

(備考) 中途退学者は、進路変更(就職)と心身の不調、就学意欲の低下等である。その他 11 名は長期履修生。
--

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) 授業計画の作成・公表に関しては、本学ポータルサイトによるシラバスの登録・閲覧システムを利用しており、以下の内容について記載している。 授業の概要、授業の到達目標、該当ディプロマ・ポリシー項目番号、授業形態、授業計画（事前事後学習含む） アクティブ・ラーニングを促す手法(主要なもの)、 評価方法(基準)、課題等のフィードバック、教科書・参考書、 科目に関する実務経験を活かした教育内容、オフィスアワー 作成にあたっては、次年度のカリキュラム及び授業担当者決定後、12 月初旬ごろにシラバス作成の依頼をし、2 月中旬に提出となる。その後、コースの教務委員を中心に内容等のチェックが行われ、それを経て年度初日に公開となる。また、ポータルサイトへの公開と同時に、Web サイトのトップページ下部に「Web シラバス」としてリンクを置き、広く学外にも公表を行っている。
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 学修成果に係る評価（単位の付与、及び履修の認定）に関しては、基本的に授業科目担当者の責任において行われている。それぞれの授業科目ではシラバス（授業計画）の到達目標と該当ディプロマ・ポリシーの項目を通じて、履修者に求められる学修成果とコースのディプロマ・ポリシーを明示している。また、シラバスには評価の方法、基準も記載しており、担当教員はそこに示した方法と基準に従って受講者の学修成果を評価し、履修を認定し単位を付与している。 卒業認定に関しては、短大、学科、コースの 3 つのレベルでそれぞれディプロマ・ポリシーが定められおり、学生に入学時に配付される「学生便覧 Campus Life」やホームページにおいて学生やその他の関係者に対して内容を公表している。同時に、各コースの卒業要件も同様の方法にて公表し、この方針は入学後のオリエンテーション等で学生と保護者に周知を図っている。これらのディプロマ・ポリシーの内容が卒業時に満足できているかについては、各学期終了後、学修成果の評価項目に対して個別の学生ごとに達成度のチェックを実施しており、評価項目の達成度をもとに、年度末に実施される教育カンファレンスにおいて、それぞれのレベルにおいてポリシーに到達できているのかの評価がなされている。

学部名	学科名	卒業に必要な単位数	G P A 制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
	地域みらい	62 単位	☒ 有・無	25 単位
	こども未来	62 単位	☒ 有・無	単位
		単位	有・無	単位
		単位	有・無	単位
G P A の活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：

(1)

ホームページ「情報の公開」→「教育研究上の基礎的な情報」

3. 校地・校舎等の施設その他の学生の教育研究環境、校舎等の耐震化率

https://sajotan.asahigakuen.ac.jp/app/wp-content/uploads/2023/04/1-3-R4-sisetu_kankyo_taisinka-ritu.pdf

(2)

ホームページ「キャンパスライフ」「施設設備」

https://sajotan.asahigakuen.ac.jp/campus_life/

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
地域みらい	福祉とソーシャルケア	620,000 円	200,000 円	442,000 円	その他 内訳 教育充実費 180,000 円 施設運営費 120,000 円 後援会費 15,000 円 委託徴収費 47,000 円 実習費 80,000 円
	韓国語文化	620,000 円	200,000 円	392,000 円	その他 内訳 教育充実費 180,000 円 施設運営費 120,000 円 後援会費 15,000 円 委託徴収費 47,000 円 国際活動費 30,000 円
	グローバル共生 I T	620,000 円	200,000 円	362,000 円	その他 内訳 教育充実費 180,000 円 施設運営費 120,000 円 後援会費 15,000 円 委託徴収費 47,000 円
	司書アーカイブズ	620,000 円	200,000 円	362,000 円	その他 内訳 教育充実費 180,000 円 施設運営費 120,000 円 後援会費 15,000 円 委託徴収費 47,000 円
こども未来	こども教育	620,000 円	200,000 円	387,000 円	その他 内訳 教育充実費 180,000 円 施設運営費 120,000 円 後援会費 15,000 円 委託徴収費 47,000 円 実習費 25,000 円
	こども保育	620,000 円	200,000 円	377,000 円	その他 内訳 教育充実費 180,000 円 施設運営費 120,000 円 後援会費 15,000 円 委託徴収費 47,000 円 実習費 15,000 円
	こども養護	620,000 円	200,000 円	389,000 円	その他 内訳 教育充実費 180,000 円 施設運営費 120,000 円 後援会費 15,000 円 委託徴収費 47,000 円 実習費 27,000 円

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組

(概要)

学生への修学支援は指導教員及び各担当部署が相互に連携しながら、以下の支援を行っている。

1. 指導教員制・・・入学後、各学生に指導教員を割り振り、修学上の問題はもとより、個々の学生生活の諸問題について、支援および助言を行う。
2. 履修登録・・・年度当初に全学生を対象に教務オリエンテーション（含む履修指導）を行った後、各学科コースの教務委員で、コース別の履修指導を行う。
3. 学期初期面談・・・進路に関するミスマッチ等による退学者予防の為、入学後早い時期に、指導教員による面談を行い、学習面、生活面、対人面、進路面、経済面について状況を把握し、必要に応じて経過観察または指導を行う。
4. 成績不振学生対応・・・各学期終了後、基準以下の学生については指導教員による面談と個別支援を行う。また、学生相談室とも情報を共有し、必要に応じて追加の面談や専門的対応を行う。
5. 保護者会・・・保護者会を年2回行っている。1回目は、入学式終了後に新生の保護者を対象に、本学の学生支援について説明する。2回目は、全学生の保護者に案内を送付し、学生生活や進路関係についての全体会を行い、その前後で指導教員との個別面談を実施する。
6. 図書館オリエンテーション・・・入学後、図書館の使用方法（情報検索、資料請求、図書貸出等）について全体オリエンテーションを行う。
7. 入学前教育・・・各コースでは課題提示またはスクーリングにより、入学前教育を行っている。また、付属高校に関しては、短大教育へのスムーズな移行を図るため、初年次教育に関連した入学前学習会を、スクーリングによって実施する。

その他、学生生活に係る諸手続きに関しては、「学生便覧 Campus Life」に掲載し、関係窓口にて対応している。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要)

本学では全コースの教員、事務職員が構成員となっている学生キャリア支援室を設置しており、月に1回支援に関する会議を実施し、全学体制で支援を行っている。1年次より進路ガイダンスを実施し、学外からはヤングハローワークの受け入れを行うことで、学生の進路意識の向上に努めている。その他にも就職先訪問及びアンケート調査、インターンシップ支援、公務員及び教員採用試験対策講座、その他資格取得、編入学への支援を実施している。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

保健室長等担当の教員と養護教諭で構成した「健康管理センター」を設置している。毎月1回程度会議を開催して、学生全体の心身の健康状態や健康課題について協議し、学園全体の情報の共有や共通理解を図り、学生相談室と連携して心身両面から学生支援へ繋いでいる。感染症対応については「フローチャート」を作成し全教職員が危機管理の意識を持ち、適切な対応ができるようにしている。また、1年生全員を対象にした性に関する講話やAEDの講義・実技の研修を毎年度計画的に実施している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：

情報の公表

ホームページ「情報の公開」

<https://sajotan.asahigakuen.ac.jp/information/kouhyo/>

「修学上の情報等」」

1. 教員組織、各教員が有する学位及び業績
2. ティーチングポートフォリオ
 - ・『研究紀要』第55集（電子ブック）
 - ・『研究紀要』第56集（電子ブック）

「上記以外の情報」」

1. 教育条件
 2. 教育内容
 3. 学生の状況
 4. 国際交流・社会貢献等の概要及び連携事業実施内容
 5. 授業評価結果
 - 6～7. 学生生活満足度アンケート結果
 8. 佐賀女子短期大学公的研究費運営・管理の方針、外部資金の獲得実績
 9. 佐賀女子短期大学研究活動不正行為に対する取組の概要、佐賀女子短期大学研究活動不正行為に関する規程
- 大学等における修学の支援に対する確認申請書
令和2年度佐賀女子短期大学自己点検・評価報告書

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F241310111158
学校名	佐賀女子短期大学
設置者名	学校法人 旭学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		59人	60人	54人
内 訳	第Ⅰ区分	30人	33人	
	第Ⅱ区分	14人	11人	
	第Ⅲ区分	—	—	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				54人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（1）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

（2）適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定		0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下）		0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況		0人	0人
「警告」の区分に連続して該当		—	—
計		—	—
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（2）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間		前半期	0人	後半期	0人

（3）退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)		0人	0人
G P A等が下位4分の1		—	—
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況		—	—
計		—	—
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。